

◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名： NPO法人 ジョイライフさやま

代表者： 代表理事 久保田慎三郎

URL :

1. 活動が必要とされた状況



狭山市は東京都に隣接し武蔵野の面影が多く残る緑豊かな地域となっています。この自然を破壊する不法投棄は近隣住民の悩みにもなっています。この自然破壊を少しでも留める事が出来たらとの思いで地主の要請を受け環境整備に取り組む団体を立ち上げ、緑多き地域作り

に取組み、環境整備、自然保全作業による自然林の保護再生を行い、新たな活力ある森林づくりと地域活性につながる事業として仲間を集め整備の取組みをする事が必要となりました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

活動開始は平成25年ころより土日に合せ参加者を集い少しずつ始め、50～80代の方々に参加頂き、現役は土日祭日、自由の利く高齢者は参加出来る曜日に合せ活動表をつくり、1日多い時は7～8名、少ない時は2～3名程度の活動で整備を進める。竹の子の生育に合せ、10月後半より次の年2月ころまでは特に力をいれ、新生竹や草の処分枯れ死した杉材、竹材を伐採し、間隔を開けた竹林として筍が収穫出来る竹林を目指し整備を進める。雑草が生えやすい時期は有効活用による地域交流活性事業のプログラムを組み、飽きが来ない整備を工夫し、清掃活動を行う。借り物機材で、体一つの整備に取り組んできた今までと違い助成によりいつでも整備に取り組む事が出来、隣接する雑木林の整備に取り組む事が出来る。



3. 活動の成果



まだまだ近隣整備が残っているが、見違える景観となり、近隣住民の刺激となったこと、さらに有効活用による地域資源を活用したイベントを企画出来、地域作り地域活性に寄与する魅力ある雑木林と成った事、子どもたちが体験活動や環境教育により学び考え、自然に対する理解を深めることが出来た事、子どもからお年寄りまで幅広い市民が自然環境の良さを認識し共有出来た事、この場所の有効活用で市民交流の輪が広がり地域活性となり地域に活力を与えられた事など地域住民に見て貰える活動を展開出来た事が大きな成果といえます。さらに広域に渡り環境整備保全に力を注ぎ後継者を育て活動する事で夢を創造する事業が展開する事が出来ます。

4. 今後に残された課題

環境整備を行うための自主的な活動資金の調達手段や資金調達の強化を図る必要と3年をめどに自立出来る体制作りや活動参加者の裾野拡大、参加促進を図る事など。